

TOWN



黒木民雄さんにインタビューする小倉哲さん

昭和20(1945)年、延岡市の家族を襲った悲劇を描いたラジオドラマ「うまれたまぢで」を手掛けたのは、MRTラジオチーフディレクターの小倉哲さん(41)＝延岡西高＝宮崎公立大卒＝。戦争は、死者や爆撃の数などの数字として記録に残っている。それらを基にしたラジオドラマに共感してもらうことで、戦争を「記憶」にしてもらいたく、懸命に生きた人たちの姿を描き出した。

作品のモデルは、延岡市北町で生まれ育ち、同年5月11日に鹿児島県知覧基地から出撃した特攻隊長の黒木民雄さんとその家族。父の肇さんは数々の偶然が重なり息子の出撃

2019 MRT 2作品に優秀賞

2019日本民間放送連盟賞の教養番組部門で、MRT宮崎放送制作の二つのドキュメンタリー作品が優秀賞(同率3位)を獲得した。共に延岡市出身のディレクターが手掛けたテレビ番組「タミはあちゃんの終活」のちと向き合った1年と、ラジオ番組「延岡大空襲追悼企画」『うまれたまぢで』。二人は受賞を励みに、今後とも人の心に残る作品を作っていくと話ししている。

戦争に翻弄された家族

ラジオ うまれたまぢで

2019 民放連賞・教養番組部門

制作者は共に延岡出身

22日に再放送

作品は22日の午前9時55分から、MRTで再放送される。



「タミはあちゃん」を挟み、左が制作者で孫娘の廣島玲奈さん、右が娘の堺幸枝さん

胸打つ親子の絆

テレビ「タミはあちゃん」の終活がもう一つあった。民子さんが再会を願っていた元夫が、既に他界していることを告げることもあった。思い切った切り出すと、「縁あって出会った運命の人」と民子さん。手渡された遺骨を「私の宝物。死んだら一緒に埋めて」と抱きしめた。

バラオ終活旅行から1年余り。幸枝さんは「母は生きることに向きになった。行ってよかった」と振り返った。玲奈さんは「この作品を見た方が皆優しい気持ちになり、お父さん、お母さんに電話してみようかなとか、大事にしようかなの気持ちで芽生えたらうれしいですね」と話している。